

26011-1644

令和 8 年 1 月 20 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号について

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号を発表したので送付します。

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号

1 病虫害名：トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery

2 作物名：ナス、キャベツ

3 発生確認の経過

令和 7 年（2025 年）10 月中旬、県央部の施設ナスほ場および露地キャベツほ場における一部の株でアリの寄生と食害が確認された。採取したアリを農林水産省門司植物防疫所に同定依頼したところ、トビイロシワアリであることが判明した。

4 国内の発生状況

本種は屋久島以北の日本各地に分布しており、野外においてごく普通に見られる在来種であるが、時折農作物に被害をもたらすことが報告されている。本種による農作物への被害は、昭和 60 年（1985 年）に福岡県で初めて確認されて以降、これまでに 22 都県において確認されている。被害作物は、ナス、トマト、キャベツ、ブロッコリー、はくさい、かんきつ、アスター等で、本県における被害確認は初である。

5 本種の特徴

（1）形態と生態

働きアリの体長は約 2.5mm で、体色は褐色から黒褐色、頭部と胸部に細かい縦じわを持つ。腹柄は 2 節で、前伸腹節後背部には 1 対のとげ状の突起（前伸腹節刺）を有する（図 1、2）。開けた草地の石下や草本植物の株元に営巣し、1 つの巣に多くの女王アリを有する。雑食性で昆虫等の死骸、植物の種子や甘露等を巣に持ち帰る。国内では、アブラナ科、ナス科作物等への加害報告がある。

（2）被害の特徴

株元に土を盛り、地際部の表皮を食害する。激しい食害を受けた株は生育不良症状を示し、定植直後などの若い株では萎凋又は枯死することもある（図 3～6）。

6 防除対策

令和7年12月現在、本種に対して登録のある薬剤はないため、深耕やほ場周辺の除草、灌水による巣の破壊など、物理的・耕種的防除に努める。



図1 全体写真



図2 2節の腹柄と前伸腹節刺



図3 地際部への食害（ナス）



図4 食害による萎れ症状（ナス）

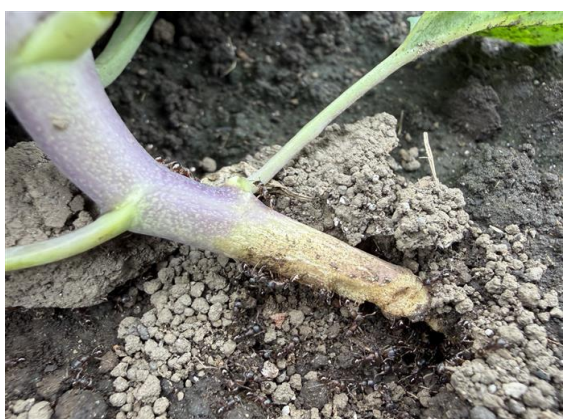


図5 地際部への食害（キャベツ）



図6 食害による生育不良（キャベツ、右）

《連絡先》
宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪・後藤
TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

